

立春



学校図書館だより

2月号

令和5年2月
柏市立柏中学校
柏市学校図書館指導員

二月の暦の「立春」は二十四節気において春の始まりとされる日です。春という言葉がつきますが、まだまだ冷たい風が吹き、関東でも雪が降る年がありますね。しかし、寒くても木々の芽は着実に準備を整えています。今年度も残りあと二ヶ月を切りました。一日一日を大切に、体調に気をつけて新しい春に向かってもう一息がんばりましょう。学校図書館はみなさんの心が温まる本を準備してお待ちしています。

立春の生菓子

立春に食べるお菓子、立春生菓子というものがあります。もともとは立春の朝に作った餅や団子、大福などを食べると縁起が良いとされているもので、うぐいす餅やさくら餅などがそれにあたります。ちょっと疲れた時に、季節を感じながら和菓子を食べて縁起を担いでみませんか？

【出典】「わくわくほっこり二十四節気を楽しむ図鑑」二見書房



芥川賞・直木賞

～1月・7月は芥川賞・直木賞の発表月です～

芥川賞は雑誌（同人雑誌を含む）に発表された新進作家による純文学の中・短編から選出され、直木賞は新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本（長編小説もしくは短編集）から選出される賞です。気になる一冊はありますか？（1/19日発表）

【出典】公益財団法人 日本文学振興会 <https://www.bunshun.co.jp/shinkoukai/>

168回芥川賞

「この世の喜びよ」井戸川射子著
「荒地の家族」佐藤厚志著

168回直木賞

「地図と拳」小川哲著
「しろがねの葉」千早茜著



今月のおすすめ本 ～ 「直木賞作品」 ～

『月の満ち欠け』

佐藤正午 著 岩波書店〈NDC913〉

一人の少女と三人の男性の物語。妻と娘を事故で亡くした正木の前に娘の生まれ変わりだという少女が現れ、物語は始まります。瑠璃という名の少女は本当に娘の生まれ変わりなのか？人を想うということがとてもせつなく、温かく感じられます。作品の中に出てくる『瑠璃も玻璃も照らせば光る』という言葉が印象的です。

『銀河鉄道の父』

門井慶喜 著 講談社〈NDC913〉

国語の教科書に載っている宮沢賢治。その宮沢賢治の生涯が父親、正次郎の視点で書かれています。明治時代は家父長制全盛の時代ですが、正次郎は惜しみなく愛情を注ぎ、行動します。とても有名でたくさんの作品を残した宮沢賢治、この物語を読むと今までよりも、きっと身近に感じます。

学校図書館からのお知らせ

2月7日に

柏中・柏一小・旭東小『三校交流ビブリオバトル』が行われました。

出場してくださったみなさん、参加してくださったみなさん、ありがとうございました。

チャンプ本には

『謎解きはディナーのあとで』が選ばれました。

紹介された本は3冊とも柏中図書館で借りることができます。

3年生の最終貸出は

2月17日（金）

最終返却は

2月28日（火）です。

